ともしび通信 Vol. 03-1

毎日が敬老の日　毎日がこどもの日

2020年12月号年末特大号

社会福祉法人ともしび福祉会

子ども達を待ちわびるサンタさん(^^)

サンタのお部屋に行ったよ！ ともしび保育園クリスマス会

12月24日（木）はともしび保育園のクリスマス会！
今年は特別にサンタさんのお部屋に行くことができたのです(＊´艸`)
サンタさんを「待っている」ではなく、「会いに行く」特別感！
みんなとってもいいお顔でした☆彡

この扉を開けると…

プレゼントを受け取ってにっこり(#^.^#)　ルンルンです💕

メリークリスマス♪　ようこそサンタの部屋へ(⋈◍＞◡＜◍)。

笑顔あふれるほっこりクリスマス会！　高槻ともしび苑

１２月２３日（水）、高槻ともしび苑でクリスマス会がありました(^^)
職員がサンタやトナカイに扮し、場を盛り上げます♪美味しいケーキと共に、
楽しいひと時になりました♪

美味しいケーキと共に記念撮影！

「メリークリスマス！」楽しい時間をお過ごしください(*^-^*)

色鮮やかなケーキ！気持ちが明るくなります(*^^*)！

楽しい時間を過ごしていただけるように、
職員も盛り上げます(^^)

ともしび通信

毎日が敬老の日　毎日がこどもの日

Vol. 03-2

2020年12月号年末特大号

社会福祉法人ともしび福祉会

年末特大号！職員インタビューコーナー

高槻ともしび苑
岡本 賢二介護主任

福祉の世界に入ったきっかけ

祖母の介護を巡って父と伯父がぶつかっているのを見て、「自分がやってもいいのに」と思った事、ボーイスカウトをしている時に老人ホームのボランティア活動をして「こんな仕事があるんだ」と思った事がきっかけです。

刺激を受けた人

今は退職されましたが、理論的にわかりやすくしっかりと指導してくださった先輩ですね。こういう人になりたい、と思いました。
「理想がないのに仕事なんかできない、介護に手間を惜しむな」という言葉をその先輩からいただいて、その言葉は介護を行う上で動機付けになっています。

主任として働くこと

主任として苑の運営に関わって２年と少しになります。
職員の「やりたい」を大切にして、トライさせてあげたい。ダメとは言わず、実現に向けた調整役、橋渡しとして力を発揮することが主任の仕事の一つだと思っています。
リーダーシップというよりは、「共和」という角度で主任業務を遂行していますが、もっとこうしたい、と思っている後輩たちが居れば、「いつでも替わりますよ」、と思っていますよ（^^）

後輩の指導・育成で心がけていること

本人の訴えを聞くようにしています。その中から自分が何を聞き取れるか、何ができるか、「どうしたい？」の声掛けの中から見つけていきます。
傾聴することを大切にしていますが、人員不足で時間も取りにくいのが現状です。
「時間が無い」、で終わるのではなく、色んなものを取り入れて業務負担を減らす、という考えがあれば時間も作れる、と思うのです。

モチベーション

今は現場が壊れないように必死です。人員不足は率先して自分が補い、現場を回しています。コロナが収まれば変えたいと考えている事があるので、それも原動力になっているかもしれません。
おむつ交換を適切な回数にし、職員の負担を減らしてあげたい。主任になって結構取り入れた事もあるのですが、器具はもっと取り入れて職員の体を守りたいですね。

未来の自分

年数が経つと考えは凝り固まるもので、「こうだからこう」という方針に固執しがちです。
自分は、時代に応じた介護観、若者の声を聞くという事を大切にしたい。
上の者が凝り固まっていると、下で働く者は動けないんです。
そこは、忘れたくない。
自分が理想とする上司は「傾聴してくれる」「話しかけやすく相談しやすい雰囲気」だと思っているので、そうなっていたいです。

ともしび保育園 保育士
荒木 奈緒さん

保育士を目指したきっかけ

母が保育士だったので、小さい頃に母が勤める保育園へ遊びに行っていました。
その頃から小さい子が好きだったし、母の職場を知った事で保育士になろうと思いました。

保育士として働くおもしろさと学び

今、２歳児クラスを受け持っています。言葉もはっきり出るようになってきて、３・４歳児よりも拙い言葉ながらも一生懸命伝えてくれます。
時には大人が思いつかないようなおもしろい言葉も出てきて、微笑ましくお話を聞いています(^^)
少しずつできることが増えていく度に成長を感じ、嬉しい気持ちになります(*^-^*)

学びという部分では、子ども達１人１人性格や個性が違う中、丁寧に寄り添いながら信頼関係を築いていくことは簡単な事ではなく、常に学びです。
信頼関係は行事に向けて気持ちを１つにまとめる事にも繋がりますので、より力を注ぐところです。

新園長を迎えて

４月から熊野園長が就任されて、まずは顔を覚えてもらおう、と積極的に子ども達と関わってくださいました。
体を張った遊びや笑いで子ども達の気持ちを掴まれ、中には「くま先生に付けるー！」と、張り切って泥だんごを持って熊野園長に向かって行く子も居ました。
子ども達にとっても、園長先生が変わるというのは大きな変化でありましたが、アクティブな関りを持たれたことが子ども達にはよかったと思います。

コロナ禍での保育

「いつもの保育ができるように」を心がけています。
職員は密を避ける対策を講じていますが、子ども達には「コロナだからこうするよ」、と不安や緊張を感じさせる事はしないように配慮して対策しています。
そうは言っても子供たちも色々と感じてはいますので、不安そうな姿をキャッチしたら担任で話し合ったり、保護者の方と連携することで不安の元を早期に把握できるようにします。
いつも安心できる関りを意識しながら、保育環境を整えていければと思っています。

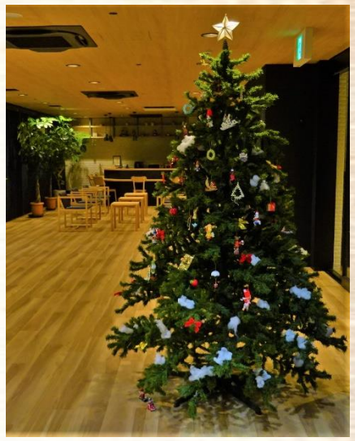
もしも保育士になっていなかったら・・・

何らかの形で子どもに関わる仕事には就いていたと思います。子供服を扱うお仕事であったり。
あとは、座ってやる仕事よりは、今のように動きがある方が向いているな、と思うのでそういう職種を選んでいましたね。

未来の自分

７年のキャリアはありますが、まだまだ学ぶことも多いです。
様々な経験を積み重ね、どのクラスの発達や関り方も知っている保育士になっていたいです。

今年もツリーがお出迎えしました(^^)



特養ともしび　クリスマスツリー

福島ともしび苑　クリスマスツリー

今年最後のともしび通信となります。
皆さま良いお年をお迎えください！
(*^^*)